

2018年1月31日号

リスクフラッシュ 263号(第8巻 第9号)



Risk Flash No.263 (Vol.8 No.9)

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター
発行責任者：リスク研究センター長 吉田裕司

- 平成29年度 第10回リスク研究センター主催セミナー
(笠松怜史氏・東京大学大学院経済学研究科博士課程2年・DC1)：山下 悠・・・Page1-2
- ディスカッションペーパー発行のご案内 (A-28 酒井 泰弘)・・・Page3-4
- 平成30年度客員研究員『公募型』募集のお知らせ・・・Page5
- リスク研究ワークショップ第2回(2017年度)のお知らせ・・・Page6
- 次回リスク研究センター主催セミナーのお知らせ・・・Page7

平成29年度 第10回リスク研究センター主催セミナー (笠松怜史氏・東京大学大学院経済学研究科博士課程2年・DC1)

リスク研究センター 政治経済学セミナー

日 時：平成30年1月18日(木) 16:10~17:10

会 場：滋賀大学 彦根キャンパス セミナー室 I (土魂商才館 3F)

演 題：『Informative Campaigning in Multidimensional Politics: A Role of Naïve Voters
—多次元政治におけるキャンペーンの情報伝達：ナイーブな投票者の役割—』

講 師：笠松 怜史氏
(東京大学大学院経済学研究科博士課程2年・日本学術振興会特別研究員(DC1))

[講演概要]

これまでのリスク研究センターでのセミナーでは既に優れた研究業績を保有する研究者を招聘してきましたが、今回のセミナーでは将来優れた研究業績を保有することが期待できる若手の研究者を招聘して開催することに致しました。ゲーム理論を政治経済学・公共経済学・産業組織論の分野で応用して研究を行っていらっしゃる東京大学大学院経済学研究



科博士課程2年の笠松怜史氏においでいただき、政治経済学に関する研究をご報告いただきました。

今回のセミナーで笠松氏に報告していただいた研究の目的は、選挙のときに候補者が行うキャンペーンが、有権者に対して真の情報を伝えているのか、そして、有権者はそのキャンペーンによってどのような行動を取るのかを明らかにすることです。現職の候補者に1名の候補者が挑戦する選挙において、sophisticatedな有権者・naïveな有権者・メディアの3主体がどのような行動を取るのかを決定するモデルの構築を行っています。選挙期間が限られている中で、候補者は当選後に自分が行う政策やその実行力をアピールしたり、対立候補の人間性や能力を批判するネガティブ・キャンペーンを行ったりするわけですが、本研究では、どのような問題を強調してキャンペーンを行うかを決める戦略が、候補者だけが持つ私的情報を有権者に伝えるシグナルになることを明らかにするとともに、以下の点が示されました。



まず、挑戦する候補者が現職の候補者に対して行うネガティブ・キャンペーンは、現職の候補者の能力が低いことを伝えるシグナルとして機能し、有権者の投票行動に影響を与えます。しかし、挑戦する候補者がネガティブ・キャンペーンを行うような均衡が存在するためには、どんな政策が自分にとって価値がある政策なのかが分かっている候補者が行うネガティブ・キャンペーンによって自分の考えをアップデートできる sophisticated な有権者しかいない状況ではなく、どんな政策が自分にとって価値がある政策なのかがまったく分かっていなくて候補者が行うキャンペーンを額面通りに受け取って投票行動に反映してしまう naïve な有権者も含まれていることが必要であることが示されました。

従来の研究では、naïve な有権者が存在していると sophisticated な有権者に正しい情報が伝達されず、候補者はキャンペーンを用いて情報の伝達を行わなくなってしまうという分析が行われていましたが、本報告では情報伝達を阻害していると考えられてきた naïve な投票者が、実は情報の伝達においては極めて重要な役割を持つことを示した研究と言えるでしょう。



(文責 企業経営学科准教授 山下 悠)

ディスカッションペーパー発行のご案内

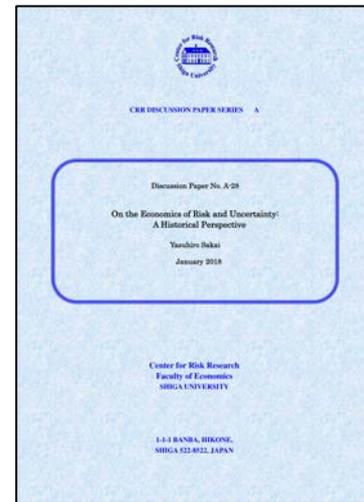
リスク研究センターより、ディスカッションペーパーA-28号を発行しました。

「On the Economics of Risk and Uncertainty:
A Historical Perspective」

(和訳：リスクと不確実性の経済学に
ついて： 歴史的展望)

CRR Discussion Paper No. A-28

滋賀大学名誉教授 さかい やすひろ
酒井 泰弘



【研究背景】

リスクと不確実性の経済学は、実に300年以上の長い歴史を持つ。しかし、経済思想の観点からの「歴史的展望」となると、案外短くごく最近のことである。私はかつて2010年3月に、滋賀大学リスク研究センター叢書の一冊として、『リスクの経済思想』というタイトルの研究書をミネルヴァ書房より上梓したことがある。その時には幸いにも「こういう種類の展望書を待ち望んでおりましたよ」という有難い声とともに、「近いうちに英語版を是非出版してくださいね」という励ましの言葉を頂戴したものだ。

「歲月人を待たず」という格言がある。あれから10年近くの星霜が流れたが、幸いにも外国の某出版社から私の方に連絡が入り、「そういう英語版を書きませんか。ただし、現代の二人の巨人——ケインズとナイト——の比較分析に焦点を絞ってください」という条件を付けてきた。私はもちろんそれには異存がなく、かかる英語版の経済思想史 J. M. Keynes versus F. H. Knight の執筆作業に着手することになった。このディスカッション・ペーパーは、その導入部分の1章に相当するものだ。道程はまだまだ長い。でも、近年中に待望の英書を完成させたいと願っている。

【要 約】

本稿の目的は、「リスクと不確実性の経済学」を歴史的立場から体系的な展望を行うことを目的とする。とくに、ケインズとナイトとを比較分析することを主眼としたい。

私見によると、リスクと不確実性の経済学の発展は六段階を経ており、しかも各段階の背後には特有の歴史的事情が存在する。第一段階の「初期の時代」(Initial Age)は1700年までに至る長い期間に対応する。数学の一分野としての統計学や確率論的思考が天才パスカル(Pascal)によって発展したとはいえ、経済理論そのものがまだまだ未発達であった。第二段階の「B-A時代」は、1700年頃から1880年頃までの期間に及ぶ。代表選手は、期待効用の有用性を示した数学者ベルヌーイ(Daniel Bernoulli)と、リスクの過大評価・過小評価の可能性を指摘した道德哲学者アダム・スミス(Adam Smith)である。第三段階「K-K時代」は、1880年頃から1940年頃までの期間をカバーする。その主人公は言うまでもなく、「真の不確実性」を初めて真正面から取り扱った才子ケインズと異才ナイトの二人である。ただし、「マクロのケインズ」と「ミクロのナイト」との関係は非常に微妙であり、「分離、接近、再分離、再接近」という入り組んだものとなっている。第四段階の「N-M時代」には、ゲーム理論という新しい分析用具が応用数学者ノイマンと理論経済学者モルゲンシュテルンの共同作業によって開発された。1970年頃から2000年頃に対応する第五段階の「A-S時代」においては、イニシアルがAかSである学者たちが大活躍した。なかんずく、アロー(Arrow)、アカロフ(Akerlof)、スペンス(Spence)、スティグリッツ(Stiglitz)の四人の活躍が目立っていた。

そして、我々は今や、2000年頃以降の第六段階「不確実な時代」(Uncertain Age)を迎えている。2008年のリーマン・ショックや2011年の「フクシマ原発事故」に直面するも、既存の学説は十分満足できる解答を提出できていない。ただわずかに、フランスの鬼才ピケティ(Piketty)による鋭い「格差分析」が将来性のある展開として期待できるだけである。ケインズやナイトから再び学び、彼らを大きく超えていくだけの勇気と度量が切に求められている。

上記ディスカッションペーパーは、リスク研究センターホームページのディスカッションペーパーサイト

<https://www.econ.shiga-u.ac.jp/risk/10/2/3/8.html>でもご覧頂けます。

尚、冊子体をご希望の方は、メールにてリスク研究センター事務局までご連絡ください。

平成30年度客員研究員『公募型』募集のお知らせ

リスク研究センターでは、平成30年度リスク研究センター客員研究員『公募型』の募集を間もなく開始致します。

■リスク研究センター客員研究員制度詳細は、下記HPにてご確認くださいませ

<https://www.econ.shiga-u.ac.jp/risk/10/2/7/>

この客員研究員『公募型』とは、博士後期課程修了者、並びに本学以外の博士後期課程在学学生を対象に公募しており、採択された場合、1年間の任期で活動いただいております（再任可）。

平成29年度は、本制度により11名の客員研究員を任命し、全員が積極的に滋賀大学における研究交流に参加して頂いています。

この制度をきっかけとして、若手研究者と滋賀大研究者の交流が進めばと期待しております。

なお、研究計画並びに研究実績に基づいた審査がございます。予めご了承くださいませ。

【応募期間】

平成30年2月13日（火）
～平成30年2月28日（水）17：00です。

滋賀大学リスク研究センター 平成30年度客員研究員【公募型】募集のご案内

下記の通り、滋賀大学経済学部附属リスク研究センター 平成30年度客員研究員【公募型】を募集します。応募書類はリスク研HPよりダウンロードして下さい→ <https://www.econ.shiga-u.ac.jp/risk/10/2/7/4.html>

- **応募条件**
博士後期課程修了者、並びに本学以外の博士後期課程在学学生または『共同研究・助成研究型』『共同研究・推薦型』以外の研究者
- **任期**
平成30年4月1日～平成31年3月31日
- **研究費等**
 - ・下記の業務に関わる彦根までの旅費を上限5万円まで負担
 - ・学内の図書館施設等が利用可能
- **業務**
 1. リスク研究センター招聘『研究セミナー』への複数回参加
 2. 年度内に開催される客員研究員報告ワークショップでの報告（中間報告も可とする）
 3. 任期満了時に研究報告書を提出
- **応募期間**
平成30年2月13日（火）～平成30年2月28日（水）17：00まで
- **応募方法**
リスク研究センター【公募型】客員研究員研究テーマに沿った研究計画書と履歴書（形式不問・詳細が記載されたHPのURL提出も可）を提出すること
■平成30年度研究テーマ『社会科学分野におけるリスク研究』
- **選考・決定**
リスク研究センター運営委員会の議を経て、平成30年3月末日までに決定いたします

お問い合わせ先

滋賀大学経済学部附属リスク研究センター事務局（執務時間13：00-17：00）
〒522-8522 滋賀県彦根市馬場1丁目1-1 土魂商才館1F
risk@biwako.shiga-u.ac.jp 0749-27-1404

リスク研究ワークショップ第2回(2017年度)のお知らせ

リスク研究センターでは、2月8日(木)14:30-18:00の時間帯に、第2回目のリスク研究ワークショップを開催致します。今回のワークショップは、平成29年度の公募型客員研究員と、滋賀大学大学院卒業生、合計6名によるものです。場所は土魂商才館3階セミナー室Iです。

リスク研究ワークショップ(2017年度) プログラム

◆ 第2回 2018年2月8日

時間	発表内容	発表者
14:30-14:35 (5分)	開会のあいさつ	
14:35-15:05 (30分)	ポジティブ志向とリスク認知の関係について	橋本京子(教育学博士、京都大学)
15:05-15:35 (30分)	自殺対策の経済的分析	林史明(京都府庁)
15:35-15:45 (10分)	【休憩】	
15:45-16:15 (30分)	社会的選好のリスク環境下への拡張方法	高梨誠之(京都大学大学院)
16:15-16:45 (30分)	ユニバーサルな住宅金融のあり方について～消費者の過大なリスク負担の解消に向けて～	中尾彰彦(経済学博士、滋賀大学)
16:45-16:55 (10分)	【休憩】	
16:55-17:25 (30分)	地域コミュニティのレジリエンスを強化する試み—神奈川県相模原市旧藤野町の事例分析—	栗田健一(経済学博士、北海道大学)
17:25-17:55 (30分)	加工食品における「風評被害」—福島原発事故に関する経済分析—	田島 正士(経済学博士、滋賀大学)
17:55-18:00 (5分)	総評	

◆学内・学外を問わず参加を歓迎します。聴講をご希望の方は、下記 URL 内の申込フォームをご利用ください(途中入退場可)。

<https://www.econ.shiga-u.ac.jp/risk/10/2/5/14/ws02.html>



次回リスク研究センター主催セミナーのお知らせ

平成 30 年 2 月 20 日(火)、滋賀大学データサイエンス教育研究センターとリスク研究センターは、広島大学大学院社会科学研究所より山田 宏教授をお招きし、今回初めて研究セミナーを共催致します。また、平成 30 年 3 月 1 日(木)、大阪大学 社会経済研究所より、松島 法明教授をお迎えして、産業経済学セミナーを開催する予定です。いずれのセミナーも学内・学外を問わず参加を歓迎します。参加ご希望の方は、下記に記載しております HP 内の申込フォームをご利用ください。

日 時：平成 30 年 2 月 20 日(火) 16:10~17:10
 会 場：滋賀大学 彦根キャンパス セミナー室 I (土魂商才館 3F)
 演 題：『Bridge Filtering—ブリッジ・フィルタリング—』
 講 師：山田 宏氏 (広島大学大学院社会科学研究所 教授)
 ◆詳細・お申し込みはこちら→<https://www.econ.shiga-u.ac.jp/risk/10/2/5/14/20180220.html>

日 時：平成 30 年 3 月 1 日(木) 16:10~17:10
 会 場：滋賀大学 彦根キャンパス セミナー室 I (土魂商才館 3F)
 演 題：『排他条件付取引契約獲得競争の経済理論分析』
 講 師：松島 法明氏 (大阪大学 社会経済研究所 教授)
 ◆詳細・お申し込みはこちら→<https://www.econ.shiga-u.ac.jp/risk/10/2/5/14/20180301.html>

データサイエンス教育研究センター・リスク研究センター共催セミナー 「Bridge Filtering—ブリッジ・フィルタリング—」

滋賀大学データサイエンス教育研究センターとリスク研究センターが、今回初めての研究セミナーを共催致します。
 講師として、広島大学大学院社会科学研究所より山田 宏教授をお招きし、「Bridge Filtering—ブリッジ・フィルタリング—」と題したセミナーを行います。

講師：山田 宏氏
 広島大学大学院社会科学研究所 教授

《講師紹介》

Education
 PhD, Economics, University of Tsukuba, 1999
 Dissertation: "Essays on Applied Econometric Time Series Analysis"
 MA, Economics, University of Tsukuba, 1994
 BA, Economics, Hiroshima University, 1990

Current and Past Academic Appointments
 2007.4 - Professor, Hiroshima University
 2000.9 - 2007.3 Associate Professor, Hiroshima University
 1997.4 - 2000.8 Associate Professor, Otaru University of Commerce
 1994.4 - 1997.3 JSPS Research Fellow (DCI)

主な研究の御実績

- (1) Yamada, H., 2017, A Trend Filtering Method Closely Related to H Trend Filtering, forthcoming in Empirical Economics.
- (2) Yamada, H., 2017, Several Least Squares Problems Related to the Hodrick-Prescott Filtering, forthcoming in Communications in Statistics - Theory and Methods.
- (3) Yamada, H., 2015, Ridge Regression Representations of the Generalized Hodrick-Prescott Filter, Journal of the Japan Statistical Society, Vol. 45, pp. 121-128.
- (4) Yamada, H. and Y. Wei, 2014, Some Theoretical and Simulation Results on the Frequency Domain Causality Test, Econometric Reviews, Vol. 33, 8, pp. 936-947.

◇日時◇ 平成 30 年 2 月 20 日(火)16:10~17:10
 ◇会場◇ 滋賀大学彦根キャンパス セミナー室 I (土魂商才館 3F)
 ◇申込◇ リスク研 HP→セミナー講演会一覧よりお申込み下さい

主催：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター

平成 29 年度第 12 回 リスク研究センター主催 産業経済学セミナー 「排他条件付取引契約獲得競争の経済理論分析」

滋賀大学リスク研究センターが提供する研究セミナーの平成 29 年度第 12 弾は、大阪大学社会経済研究所より、松島法明教授をお招きして、「排他条件付取引契約獲得競争の経済理論分析」と題した産業経済学セミナーを行います。

講師：松島 法明 氏(大阪大学社会経済研究所 教授)

《講師紹介》

学歴
 1996 年 03 月 東京工業大学 工学部 社会工学科 卒業 学士(工学)
 1998 年 03 月 東京工業大学 社会理工学研究所 社会工学専攻 修了 修士(工学)
 2001 年 03 月 東京工業大学 社会理工学研究所 社会工学専攻 修了 博士(工学)

職歴

2001 年 04 月 ~ 2004 年 03 月 信州大学経済学部講師
 2004 年 04 月 ~ 2005 年 03 月 信州大学経済学部助教授
 2005 年 04 月 ~ 2007 年 03 月 神戸大学大学院経営学研究科助教授
 2007 年 04 月 ~ 2009 年 03 月 神戸大学大学院経営学研究科准教授
 2009 年 04 月 ~ 2011 年 08 月 大阪大学社会経済研究所准教授
 2011 年 08 月 ~ 継続中 大阪大学社会経済研究所教授
 2017 年 04 月 ~ 継続中 大阪大学社会経済研究所長
 2017 年 04 月 ~ 継続中 大阪大学栄誉教授の称号付与

主な研究の御実績

- (1) Pricing with cookies: Behavior-based price discrimination and spatial competition, 2016. (A previous version, Monash Econ. WP: 2017-07), (co-authored with Chongwoo Choe and Stephen P. King), forthcoming in Management Science.
- (2) Should firms employ personalized pricing?, (A previous version, ISER DP-869, 2013, the Appendix (not for publication), Journal of Economics & Management Strategy, Vol. 24, Iss. 4, pp. 887-904, 2015, (co-authored with Toshihiro Matsumura).
- (3) What factors determine the number of trading partners?, ISER DP-808, 2011; Discussion Paper at Shinshu U, 2008, (Web Appendix), Journal of Economic Behavior & Organization

◇日時◇ 平成 30 年 3 月 1 日(木)16:10~17:10
 ◇会場◇ 滋賀大学彦根キャンパス セミナー室 I (土魂商才館 3F)
 ◇申込◇ リスク研 HP→セミナー講演会一覧よりお申込み下さい

主催：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター

「リスクフラッシュご利用上の注意事項」

本規約は、滋賀大学経済学部附属リスク研究センター（以下、リスク研究センター）が配信する週刊情報誌「リスクフラッシュ」を購読希望される方および購読登録を行った方に適用されるものとします。

【サービスの提供】

1. 本サービスのご利用は無料ですが、ご利用に際しての通信料等は登録者のご負担となります。
2. 登録、登録の変更、配信停止はご自身で行ってください。

【サービスの変更・中止・登録削除】

1. 本サービスは、リスク研究センターの都合により登録者への通知なしに内容の変更・中止、運用の変更や中止を行うことがあります。
2. 電子メールを配信した際、メールアドレスに誤りがある、メールボックスの容量一杯になっている、登録アドレスが認識できない等の状況にあった場合は、リスク研究センターの判断により、登録者への通知なしに登録を削除できるものとします。

【個人情報等】

1. 滋賀大学では、独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律（平成15年5月30日法律第59号）に基づき、「国立大学法人滋賀大学個人情報保護規則」を定め、滋賀大学が保有する個人情報の適正な取扱いを行うための措置を講じています。
2. 本サービスのアクセス情報などを統計的に処理して公表することがあります。

【免責事項】

1. 配信メールが回線上的問題（メールの遅延、消失）等によりお手元に届かなかった場合の再送はいたしません。
2. 登録者が当該の週刊情報誌で得た情報に基づいて被ったいかなる損害については、一切の責任を登録者が負うものとします。
3. リスク研究センターは、登録者が本注意事項に違反した場合、あるいはその恐れがあると判断した場合、登録者へ事前に通告・催告することなく、ただちに登録者の本サービスの利用を終了させることができるものとします。

【著作権】

1. 本週刊情報誌の全文を転送される場合は、許可は不要です。一部を転載・配信、或いは修正・改変してblog等への掲載を希望される方は、事前に下記へお問い合わせください。

*尚、最新の本注意事項はリスク研究センターのホームページに掲載いたしますので、随時ご確認願います。

(<https://www.econ.shiga-u.ac.jp/risk/10/2/3/12.html>)

発行：滋賀大学経済学部 附属リスク研究センター

編集委員：吉田裕司、金秉基、石井利江子、近藤豊将、佐野洋史、
竹村幸祐、藤井孝之、森宏一郎

事務補佐員：山崎真理、萩原多恵子

滋賀大学経済学部附属リスク研究センター事務局（Office Hours:月一金 13:00-17:00）

〒522-8522 滋賀県彦根市馬場1-1-1 TEL:0749-27-1404 FAX:0749-27-1189

e-mail: risk@biwako.shiga-u.ac.jp

Web page : <https://www.econ.shiga-u.ac.jp/risk/>